

参加者、参加予定者の皆様へ

Build Live Tokyo 2010 審査委員会

2010/9/29

審査方針について

早いもので Build Live Tokyo も今回で3回目となりました。

過去の Build Live Tokyo を振り返ってその評価軸を考えますと、提出された作品のうち「BIM で出来ることは何でもやってみる」という取り組みや BIM による建築設計の新たな可能性を示す作品を評価してきましたが、一方で、高い評価の作品であっても BIM への取り組みがどの様にデザインにフィードバックされ、「BIM であるがゆえに良い作品ができた」という因果関係については十分に表現されていなかったと思います。

そこで、今回は「BIM だからこそ、このデザインになった」という意図が明快な作品やこれまで行われてきた技法を試すだけでなく新しい技法を使って成功した作品を高く評価したいと思います。

また、BIM を使ったコンペは従来からの競技設計と異なり、作品は既にコンピュータの中とはいえ実現しているわけです。したがって、日本建築学会の作品賞や BCS 賞などの二次審査と同じような手順が採れるのではないかと考え、作品をウォークスルーして評価する手法も採り入れることにしました。

ノルウェーの例にもありますように、今後 BIM によるコンペの実施とその審査は増えていくと考えられます。この Build Live Tokyo が、それら実際のコンペによい影響を与えられるよう審査員も参加者の皆様と同様努力するつもりです。

今回も Build Live Tokyo 2010 の成績優秀者を Archi Future 2010 にて発表します。Archi Future 2010 の開催趣旨では「コンピューテーションの活用による新しい価値創造は、建築の領域を広げ、"建築の力"を高める」さらに「建築界の再編までを予感させています」と指摘していますが、このテーマに対する解答こそ我々が目指すところではないでしょうか。